

2008年7月30日(水) 18:00～18:50

【出席者】

取締役 副社長執行役員	下宿 邦彦
取締役 常務執行役員	浜岡 純治
執行役員 経理財務部長	小酒井 健吉

【第1四半期決算について】

Q / 第2四半期に計画していた導出案件が遅れる可能性があるという説明があったが、具体的に説明願いたい。

A / 技術導出契約金等の収入の見込みは四半期ごとに計画に織り込んでいるが、その内、第2四半期に予定していたもので遅れる可能性があるということである。個別の案件については答えられない。

Q / 遅れたらどうなるのか。第2四半期累計計画から第1四半期実績を差し引くと、第2四半期は45億円ということになるが、第2四半期累計で30億円～40億円も少なくなる可能性があると考えて良いのか。

A / 具体的に個別積み上げでお答えしているのではない。いくつかの技術導出について並行して検討協議している中で遅れるものが出る可能性もあるだろうということである。

Q / 技術導出契約金等の収入は第2四半期に予定しているものが後ろにずれたとしても、通期の68億円という計画は変更する必要がないという認識で良いか。

A / 現段階では、計画を変更するほどの情報を持っていないということである。結果については相手があることなので何とも言えない。

Q / 販売促進費およびその他販管費で、第1四半期の前同比11億円減の要因として合併のシナジー効果という説明があった。第2四半期は、国内医薬営業の体制変更(ワンライン化)の影響で第1四半期から第2四半期にずれこむ部分があり、第2四半期累計期間では当初計画通りということだが、これらの影響で販管費はこれだけ大きく変化するか。

A / 決算短信15ページを見ていただくとわかるように、販売促進費は、前第1四半期が27億円に対して当第1四半期は23億円と4億円減少しており、この主因はワンライン化の影響による第2四半期へのずれとみている。第2四半期については、前期は44億円、今期は第2四半期累計計画から第1四半期実績を差し引きすると51億円となり、前期より7億円増えることになる。これは、もともと第2四半期は第1四半期より計画が高いこと、第1四半期からずれ込みがあることによる。

Q / 研究開発費の一部で第1四半期から第2四半期にずれこむとの説明があったが、第2四半期でも同様に期ずれにより費用発生が遅れがあるとすれば、研究開発費は、第2

四半期累計計画の 395 億円に届かない可能性はあるのか。

A / 結果的に計画を実績が下回ることがあるので、今期も計画に届かない可能性は否定できない。しかし、個別プロジェクトはそれぞれ順調に進展しているので、現時点ではほぼ計画通りと予想している。

Q / 今期は、サイトクローマからの CTA018 導入とパズクロスの共同開発に関して、トータルどのくらい費用がかかるか教えてもらえないか。

A / 研究開発費は前第 2 四半期が 189 億円、当第 2 四半期は差し引きすると 232 億円となり、43 億円増える計算になる。前期と比べると海外開発が本格的にフェーズ 3 に入っており、更に計画外でサイトクローマとパズクロスの 2 案件がある。それを考えると、当第 2 四半期は前年同期に比較して増えると考えている。どの程度増えるのか、確度の高い予想が難しい。第 1 四半期、第 2 四半期を併せ、計画外案件も含めトータルとして計画並みの消化になると見ている。

Q / 第 2 四半期に発生する、CTA018 の導入、パズクロス共同開発開始に伴う費用は、2 件併せて 30 億円程度と勝手に解釈しているが、その見方は間違えているか。

A / 当たらずとも遠からずである。

Q / 早期退職の募集は今週のはじめに締め切られていると聞いているが、具体的な人数等は決まったのか。

A / 実績が確定しだい改めてご報告する。

Q / 決算短信 5 ページの貸借対照表で現預金が 484 億円減少し、短期貸付金と投資有価証券が増加している。その背景を説明して欲しい。

A / 余剰資金については国債等の安全な資産で運用する方針であるが、6 月になり、長期金利が上昇し長短金利差が拡大してきたため積極的に長期国債を取得した。また、短期貸付金の増加については三菱化学の金融子会社 MCFA に預けたことによる。MCFA には銀行普通預金よりレートがよいので運転資金を預けている。

Q / MCFA への貸付は営業外損益の改善につながるのか、これは計画に織り込んでいないのか。

A / 改善につながる。計画にもある程度織り込んでいる。

Q / 投資有価証券の増加には、長生堂製薬は影響していないのか。

A / 未だ資本参加していないので影響はない。

【開発パイプラインについて】

Q / セントコアから導入しているゴリムマブ(CNTO148)の臨床試験のステージアップに伴うマイルストーンの支払いは発生していないのか。

A / 契約条件の一部になるのでお話できない。

Q / 現在進められているゴリムマブの臨床試験のデザインを教えてください。

A / ヤンセンファーマとの共同開発なので、試験の詳細については現時点ではお答えできない。海外の試験のデータについては国内申請に活用する予定である。

Q / ゴリムマブの日本での申請はいつ頃を想定しているのか。

A / ヤンセンファーマとの共同開発であり、相手の意向を踏まえながら決定しなければならぬため、現状ではお答えできない。

Q / 5 月の決算発表の際に、重点開発プロジェクトとして、糖尿病治療剤の DPP4 阻害剤、SGLT2 阻害剤を挙げているが、昨今、FDA の糖尿病の開発ガイドラインが厳しくなってくるという状況の中で、この 2 剤の開発の考え方が変わった、あるいは優先順位が落ちたということはないのか。

A / 特に変わっていない。国内では MP-513 の開発が順調に進展しているし、TA-7284 についても、導出先の J&J が順調に開発継続中である。

Q / ガイドラインを受けて、開発が厳しいという感想は持っていないのか。

A / 個別の化合物それぞれに対する対応の指示という認識はしていないので、我々の化合物の開発を粛々と進めるという姿勢に変わりはない。

Q / 糖尿病治療薬の承認を得るためのハードルが上がると、導出が難しくなるのではないかと。現時点で何らかの感触は持っていないのか。

A / その可能性は否定できない。個別の製品については、パートナーと秘密保持契約を交わした上で協議を進めているので、お答えできない。

Q / TA-7284 がフェーズ 3 に入るタイミングは。

A / 現状では開示できる段階ではない。

Q / セレジストの OD 錠はライフ・サイクル・マネジメントの一環か。

A / 脊髄小脳変性症は運動機能が低下する疾患であり、嚥下機能が弱まるため、飲みやすい製剤が欲しいという患者さんの要望に応えたものである。

#### 【営業について】

Q / レミケードは第 1 四半期の売上が 89 億円で、第 2 四半期累計計画から差し引くと、第 2 四半期が 78 億円と第 1 四半期より減少する計算になるが、なにか特別な要因があるのか、それとも、全体の計画を据え置いたので、レミケードについても計画を変更していないということか。

A / 後者である。全体の計画を据え置いている。

Q / レミケードの適応拡大の考え方について聞きたい。今後、強直性脊椎炎、潰瘍性大腸炎などの適応を取得していくと思うが、それぞれの適応において、先に承認を得た薬剤が売上を拡大させ、現在のリウマチのようなマーケットの構成になると考えて良いのか。有効性も重要だが、安全性情報などのエビデンスに対する信頼感が売上を拡大させると考えているのか。

A / 競合品よりも先に適応を取得すれば、エビデンスが蓄積され、優位に進められるということはある。そういう意味で、リウマチは今後競合が激しくなるため、その他の適応を追加し、売上を確保していくのが我々の戦略である。

Q / ヒュミラが強直性脊椎炎、潰瘍性大腸炎の適応拡大で追いかけているが、レミケードの方が先に適応を取ることで、リウマチの市場のような状況になると考えているのか。

A / そのように期待している。

Q / メドウェイ製造販売後調査の患者登録の状況は、処方始まっているのか。

A / 200 施設を目標に調査を依頼しているところであり、処方が始まったところである。

Q / ミールピックの売上が上期公表見込に対して進捗が良いが、季節性によるものか。それとも計画を上回るのか。

A / 今年から接種対象が広がり、第 1 四半期は好調に推移した。7 月も引き続き好調に推移しているので、第 3 四半期以降、どのように推移するのか予想が難しいが、計画は上回ると見ている。

Q / 新薬メーカーが扱うジェネリック医薬品に対する信頼度合いが高いようなので、新薬メーカーが販売する製品は売れるのではないかとされているが、アムロジピンの状況はどうか。

A / まだ発売直後なので 市場からの評価は認識していない。

【サイトクローマ・インクとの CTA018 に関するライセンス契約について】

Q / サイトクローマとのライセンス契約に関し、今期に発生する研究開発費はいくらか。

A / トータルで 105 百万カナダドル。内訳は、契約時および開発の進捗に応じて支払う一時金（マイルストーン）85 百万カナダドル、20 百万カナダドルは出資。出資比率は 20% 以下で持分法適用対象外。マイルストーンのうち契約時一時金を当第 2 四半期に支払う。具体的な金額については、先方との秘密保持契約の関係で申し上げられない。

Q / 85 百万カナダドルが今期の研究開発費として発生するのか。

A / それはマイルストーントータルの金額である。今期にすべてが発生する訳ではない。

Q / サイトクローマから CTA018 を導入したが、研究開発コストが来期以降どのようにあがっていくのか教えてほしい。

A / マイルストーントータルで 85 百万カナダドル、今期発生する契約時一時金はその内の一部、それに加えて、当社としての開発費用が発生するが、腎領域なので多額の開発コストはかからないとみている。

Q / 開発費は全額負担か、折半か。

A / 先方も負担するが、当社の方が負担は多い。

Q / 既存の「ゼンブラー」、「ヘクトロール」はビタミン D 製剤でトップだが、「センシパー」というカルシウムレセプターアゴニストが売れている。ビタミンの差別化ではなくカルシウムレセ

プターアゴニストという新しいジャンルでの差別化というのができているのか。

A / 考え方として CTA018 は活性型のビタミン D 誘導体の位置づけである。今後の開発の展開の中では、そういうものとの比較等も必要になるかもしれないが、現状ではビタミン D の一部であるという捉え方をしている。

Q / サイトクロームから導入した CTA018 について、ゼンブラーとの比較の話があったが、ゼンブラーは経口剤だが、CTA018 も経口剤か。

A / CTA018 は注射剤である。

Q / 注射剤だけでは不十分なのではないか。

A / 対象者が腎不全患者なので、注射剤でも適用させることが十分可能だと考えている。

以上